

☆ 評価基準 A … 80～100% 達成できた
 B … 50～ 80% 工夫や改善がなされ良かった
 C … 50%以下 努力したがほとんど達成できなかった

令和2年度 学校関係者評価書

室戸市立吉良川中学校

項目 1	教育課程（学力向上）・学習活動		
学校教育目標	優しさと温かみがあり、主体的に活動できる生徒の育成		
中・長期経営目標	① 自らすすんで学習する習慣を身につけさせる。 ② 協働して課題解決に向けて取り組む態度を身につけさせる。 ③ 自らの進路を切り開くことのできる生徒を育成する。		
短期経営目標	① 教員の研究授業を実施し、授業力の向上を目指す。 ② 家庭学習の習慣化を目指し、授業につなげ学力向上を図る。 ③ 基礎学力の定着と、学力向上の具体的な取り組みを推進する。		
評価項目（目標達成に向けた具体的取り組み）	達成状況	評定	改善方策
①「聴く力」と「気付く力」の育成を通して、主体性とコミュニケーション能力の向上を図る。	・各教科で「聴く力」と「気付く力」が育成されるような授業づくりを行ったことで、徐々に「聴く力」と「気付く力」がついてきているが、一部の生徒にまだ弱さが見られる。	B	B ・指示の出し方を工夫するとともに、生徒の語彙を増やす指導をする。また認知力を高めるためにコグトレを小中で連携して行うように提案していく。 ・カリキュラム・マネジメントの視点を利用した教科横断的な授業づくりの研究を、チーム会を中心に行っていく。 ・課題を最後まで諦めずに仕上げるように、放課後等を使い指導する。 ・朝読書で生徒が手にする本のジャンルに偏りがないように、教員の選書も取り入れて、多様な本に触れさせるようにする。
②全教員の研究授業を実施し、わかる授業・全員参加の授業を目指し、学力向上を図る。	・計画通りに研究授業を実施し、授業改善を図っている。また、異教科によるチームで学力向上に向けての研究協議を実施している。	B	
③家庭学習の習慣化、特に復習に重点を置いて基礎学力の定着を図る。	・家庭学習では各教科でプリントを用意し、個別の課題に対応できるようにしている。しかし、分からない所を自ら調べて仕上げるまでには至っていない。	B	
④朝読書や朝学習を計画的に実施することによって、基礎学力の向上に努め、進路保障につなげる。	・朝学習は国・社・数・英とも再テストを実施することで、全員合格することができている。朝読書は意欲的に読めているが、今後は読む本の質的向上を目指していきたい。	B	
学校関係者評価	講評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善策
	カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた教科横断的な授業は生徒の応用力を付けるうえでも効果的だと思うので、研究を進めてほしい。また、家庭学習において、課題を最後まで調べながら仕上げるできない生徒については、調べ方のヒントを与えることも行なってはどうか。	B	既習事項を用いて活用する力を付けさせるために、今後さらにカリキュラム・マネジメントについて、チーム会を中心に研究し、授業づくりに生かしていくようにする。課題を仕上げる際に調べるのが苦手な生徒には、学習支援のみならず何を用いて調べたらよいか、どこに着目して調べたらよいかなどを焦点化し、取り組めるようにしていく。

令和2年度 学校関係者評価書

室戸市立吉良川中学校

項目 2	生活健康		
学校教育目標	優しさと温かみがあり、主体的に活動できる生徒の育成		
中・長期経営目標	① 自他共に生命の大切さを知り、人や自然を愛する心を育てる。 ② 心身共に健康な生徒の育成を目指す。 ③ 体力づくりを進んで取り組める生徒を育成する。		
短期経営目標	① 人権教育・道徳教育・安全教育を通じて、命を大切にできる生徒を育てる。 ② 自己の心身の仕組みと、発達を知り、自分や友達の気持ちや体を大切にできる生徒を育てる。 ③ 基本的な生活習慣を確立させ、学校生活に積極的に参加する生徒を育てる。		
評価項目 (目標達成に向けた具体的取り組み)	達成状況	評価	改善方策
①生徒の実態に応じ、各関係機関と連携を図り、性に関する教育や薬物・たばこ・飲酒等の予防教育、携帯電話・スマートフォンが体に及ぼす影響を学ぶ教室等を実施し、心身共に健康な生徒の育成を目指す。	・新型コロナウイルスの影響により、講師を招いての教室が実施できず、保健の授業を中心とした健康教育を実施し、未然予防に努めた。また、生活リズムチェックなどを学期に1回実施することで生徒の実態を把握し、生徒・教師・保護者と全体共有し、課題意識がもてた。	B	・今後も計画を予定通り立て、状況に応じて臨機応変に対応していく。 ・継続してお便りを通して情報発信をし、家庭との連携が必要不可欠なので保護者にも呼びかけ協力をしてもらおう。また、外部講師や保健の授業で学ぶ機会を増やしていきたい。来年度から学校全体で月に1回ノーメディアの日を作り、実施していきたい。 ・体調不良でなくても気軽に保健室に来室できるよう、環境を整えたり、関係性を築いていく。SCや教師間での情報共有は継続して行う。
②生活リズムチェックを毎学期実施し、保護者と生徒に保健便りを通じて情報発信し、生活リズムを振り返る。そして、自分自身の生活習慣の改善・確立することが出来るような生徒を育てる。	・毎学期リズムチェックを実施し、保護者と生徒にお便りを通して情報発信することはできた。しかし、今年度はコロナ感染症のため自粛生活こともあり、例年に比べメディアの時間や就寝時刻、起床時刻など規則正しい生活が乱れていた。	B	
③生徒の心身の健康の保持増進や、ケアに努める。また、気になる生徒については、教師間での情報交換を密に行うと共に、必要に応じSC等と連携を図る。	・今年度も保健室来室する生徒は少なかったが、教員が声をかけ、ケアに努めた。教師間での情報交換は適宜行い、SCの助言も取り入れながら、支援をした。	A	
学校関係者評価	講評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善策
	生徒の様子を見ていると、真面目で、落ち着いている。生徒の携帯電話所持率は半数以下で、吉良川中学校としての携帯電話持ち込みの規則は校区外から通学している生徒のみ持ち込み可としており、登校後は学級担任が預かり、下校時に渡している現状である。規則がきちんとしているので良いと思います。	B	メディアの使用時間を少しでも減らせるように意識して、PTAと協力しながら改善していきたい。

令和2年度 学校関係者評価書

室戸市立吉良川中学校

項目	3	特別支援教育			
学校教育目標		優しさと温かみがあり、主体的に活動できる生徒の育成			
中・長期経営目標		① 個別指導計画、個別の支援計画を作成し、個に応じた学習指導や生活指導、進路指導を工夫して、その可能性を最大限に伸長する。 ② 知的障害や発達障害(LD、ADHD、高機能自閉症等)特性のある生徒及び、障害のある生徒への教育的支援を人権尊重の精神に基づき、一人ひとりの教育的ニーズに応じて、保護者との連携を図りながら実施する。 ③ 互いの個性を認め合い、助け合いながら、共に生きていこうとする生徒を育成する。			
短期経営目標		① 校内支援体制を整備し、支援を必要とする生徒に対する理解を深め、個に応じた支援を行う。 ② 全校生徒の個別の指導計画を作成し、全教職員で個を生かした指導を行う。 ③ 関係機関との連携を図り、特別支援教育に関する研修を充実する。			
評価項目 (目標達成に向けた具体的取り組み)		達成状況	評価	改善方策	
①校内支援会を月1回実施し、支援を必要とする生徒の実態を把握し、個に応じた支援を行う。		・月に1回実施できた。 ・支援体制や今後の方針、振り返りなど全教員で確認することができた。	A	B	・継続して実施していく。 ・数名にしぼり、具体的に支援体制を考え、振り返りを実施していく。
②個別の指導計画を作成し、全教職員で情報を共有し、支援に当たる。		・年度当初に全教職員で情報を共有することができた。 ・年度途中の振り返りが不十分だった。	B		・当初だけでなく、年度途中も適宜加筆をしたり、情報共有を行っていく。
③校内研修を実施し、発達障害等の実態把握と支援方法についての理解を深め、指導力の向上を目指す。		・今年度はコロナ感染症のこともあり、講師を招いての校内研修ができなかった。	C		・今後も講師招聘の計画を立て、状況に応じて臨機応変に対応していく。招聘できない場合は、校内で資料等を活用しながら指導力の向上を目指したい。
④小学校との連携を図り、中学校入学前の生徒の実態や支援に関する情報共有を行う。		・入学前に十分な情報共有が行えた。小中合同の運動会もあり、様々な場面で情報共有が行えた。	A		・今後も積極的に情報共有を行えるよう、相談しやすい環境づくりを意識して教師間の連携を深める。
学校関係者評価	講 評		評価	学校関係者評価を踏まえての改善策	
	昔に比べて発達障害に対して受け入れやすく、育てやすい環境になっている。コロナで講師を招いて校内研ができないのであれば、リモートでやってみてはどうか。		B	臨機応変に対応しながら来年度はリモート研修をという手段も取り入れて計画を立てていきたい。	

令和2年度 学校関係者評価書

室戸市立吉良川中学校

項目	4	進路指導			
学校教育目標	優しさと温かみがあり、主体的に活動できる生徒の育成				
中・長期経営目標	① 互いに尊重・協力・協調できる生徒を育成する。 ② 自ら進んで考え、行動できる生徒を育成する。 ③ 主体的・計画的に学習や部活に取り組み、将来の生活を創造できる能力を育てる。				
短期経営目標	① 教育活動全体において、キャリア教育の視点に基づいた系統的な指導を行う中で、望ましい職業観、勤労観、及び職業に関する知識を取得し、社会人としての心構えを持たせる。 ② 生徒が主体的に進路選択できるよう、適切な情報を幅広く収集整理し、積極的にその活用をはかる。				
評価項目 (目標達成に向けた具体的取り組み)	達成状況		評定	改善方策	
①自己を知り、将来の夢や希望について考えさせ、進路について関心を高めさせる。	各学年の発達段階に応じて進路学習を計画・実施してきた。自分を見つめ、進路情報を入手する貴重な時間となった。また、キャリアパスポートを活用し、定期的に自己を振り返り、将来の夢や希望について考えさせるようにした。		A	A	・キャリアに関する資料を保存、活用することで、3年間を見通した進路学習の計画を立て、情報を得る時間を保障する。
②キャリア教育の一環として、実際に地域で働いている人の話を聞いたり、職場体験学習で学んだりしたことを将来の人生設計に役立てる。	キャリア講演会では、今の学習と将来のつながりを捉え、学習意欲を喚起した。また、校外学習ではものづくり展、美術館、技研で講話を聴き、体験することで、働くことの意義について理解を深めた。総合学習では地域の人々に聞き取りすることで、多様な勤労観を深め、学んだことについて総合的な学習の時間等の発表会で発表することができた。		A		・学んだことを自分の生活や将来にどう生かしていくのかというところまで深めさせるということ、さらに意識させていく。 ・地域の方々との活動や自分たちで考え実行する活動を企画し、社会性を高める。
③高校説明会、職業適性に関する学習や面談を通じて、生徒の自己理解に役立て、一人ひとりの生徒に合った、進路選択をさせる。	2・3年生を対象に高校説明会を実施し、3年生は2学期に高校の体験入学に参加した。各学年の進路指導計画に沿って、高校調べや職業調べに取り組んだ。3年生は早い段階から継続して進路面談を行い、生徒に課題意識を持たせることに努めた。		B		・計画的・継続的に実施していく。個々の特性を理解し、それぞれに合った個別指導を心掛ける。
学校関係者評価	講評		評定	学校関係者評価を踏まえての改善策	
	早い段階で目標を決定するための体験が今の中学生には不十分ではないだろうか。校外学習に出向いたり、総合的な学習の時間で地域の人に聞き取りを行ったりすることは良いことなので、今後も継続して行ってほしい。さらに、地域の人々と触れ合う機会や体験する場を設けると、地域についての理解が深まるのではないか。		A	総合的な学習の時間で地域のことについて聞き取りを行ったことを、今年度は学習発表会として発表することができたが、調べたことを発表することがゴールになっているので、「吉良川を活性化する」という目標に対して、具体的にどう取り組んでいくのか考えさせ、何らかの形にしていきたい。評価委員の方からは特産品を使ったメニューの開発や今年3年生が作成したキャラクターを商品のパッケージに使ってはどうかという話もあったので、今後検討していきたい。	

令和2年度 学校関係者評価書

室戸市立吉良川中学校

項目	5	特別活動		
学校教育目標	優しさと温かみがあり、主体的に活動できる生徒の育成			
中・長期経営目標	学級活動や生徒会活動の企画立案・実施、また、日常生活の諸問題に対する問題提起・討議、更には行事への取り組み等を通して、関わりあい高まり合う「集団づくり」を創造する。			
短期経営目標	学級活動や生徒会活動、また、行事等を通して、関わり合い高まりあう「集団づくり」を目指す。 ① コミュニケーション能力の向上を目指す。 ② 集団的自尊感情や人権意識の向上を目指す。 ③ 規範意識やボランティア精神の向上を目指す。 ④ 生徒の実態把握を向上する。			
評価項目 (目標達成に向けた具体的取り組み)	達成状況	評価	改善方策	
① コミュニケーション能力の向上のため、学級活動・生徒会活動・行事等の取り組みに生徒同士が関わり合う場を意図的に設定する。	・各授業での話し合い活動や、生徒会専門部での話し合いを通して生徒同士が意見を交換し合い、総合学習で各学年による地域へのインタビューや職場体験学習により、コミュニケーション能力が向上した。	B	B ・生徒が自ら自主管理できるような取り組みを仕組んでいく。(班会、委員会活動、生徒会活動、学校行事) ・自尊感情をより一層高めるため、わかる授業を行う。生徒が主体的に自主的・自治的活動をできるよう取り組みを仕組んでいく。 ・肯定的二者面談を継続・充実させる。 ・規範意識としては、行事等に積極的に関われない生徒が少なくなってきたので、全生徒が積極的に関わられるよう意識を持たせる。 ・hyper-Q Uアンケート等で把握したことを活かし、肯定的二者面談や学期末の三者面談の手立てにし、今以上にコミュニケーションをとる。	
② 自尊感情や人権意識の向上のために、人権教育の全体計画を見直し、肯定的二者面談など具体的な取り組みをすすめる。行事や外部講師の招聘を充実する。	・日々の肯定的な声かけや各学年が必要に応じて肯定的二者面談を行い、自尊感情を高められるよう取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大により、人権講演会や平和学習が行われなかったが、人権意識調査等の結果は良好なものであった。	B		
③ 規範意識やボランティア精神の向上のために、あいさつ運動や空きビン・空き缶回収、海浜清掃や国道の花植え等の活動へ積極的に参加できるよう意識づけていく。	・毎週生徒会生活委員会による「あいさつ運動」や空きビン・缶回収、海浜清掃、国道花壇の花植へ参加し、規範意識・ボランティア精神を向上することができた。	A		
④ hyper-Q Uアンケートを実施することにより、学級集団の状況や生徒一人ひとりの人間関係を把握する。また、SCと連携を図り、子どもへの相談活動を行い関係作りに役立てる。	・hyper-Q Uアンケートの結果を見ると、生徒一人ひとりの人間関係の数値はよい方向(生活満足群)にある。また、SCと連携を図り、定期的な支援会や個別な相談活動を行い、生徒と良好な関係を築くことができた。	A		
学校関係者評価	講評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善策	
	以前より生徒が主体的に行事などで活動する姿が見られるようになってきた。また、地域で生徒に会ったときも挨拶してくれるなどの礼儀正しい面も数多く見かけた。しかし、学校の生徒数が減少した影響もあり、元気がないように感じる。	B	今以上に主体的に活動ができる生徒を育成するために、行事や授業等で企画・運営が生徒自身で行うことができるように指導・準備を行っていく。	

令和2年度 学校関係者評価書

室戸市立吉良川中学校

項目	6	保護者・地域との連携				
学校教育目標	優しさと温かみがあり、主体的に活動できる生徒の育成					
中・長期経営目標	保護者や地域との連携を密にし、開かれた学校づくりを推進する。					
短期経営目標	① 学校だより・学級通信やPTAだより等を通じ、学校の情報を積極的に発信する。 ② PTA役員会・吉良川地区教育をすすめる会・学校評価委員会等の会議を開催し、本校の課題解決のための意見交換を行うとともに、学校教育に対する評価を学校経営に生かす。					
評価項目（目標達成に向けた具体的取り組み）	達成状況	評価	改善方策			
① 教育をすすめる会、PTA役員会・総会・体育後援会・学級懇談会等の際に、学校の取り組みや部活動・学級の課題等を説明し、課題解決を図るようにする。（情報発信）	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや学級通信、ホームページ等で積極的に情報発信できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学級通信の発行が少なかった。 より一層、正確な情報発信に努める。 			
② 学校行事、PTA行事等に地域の方々が、できるだけ多く参画できるように企画・運営し、ポスター掲示や広報活動をする。（行事への参加・協力）	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は小中合同運動会を開催できた。新型コロナの影響で、参加者が限定され、地域の方が参加できなかったが、新型コロナが収まれば、参加しやすくするため、開催場所やプログラム等を考えたい。 文化祭から総合学習発表会と名前を変え、各学年が総合学習で取り組んだ内容と合奏発表を披露する行事となったが、多くの学校関係機関者や保護者の方々の参観していただくことができ、高い評価をいただいた。新型コロナウイルスが収束すれば、事前にポスターを掲示して、広報を行いたい。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育大会や総合学習発表会（文化祭）、各行事により多くの保護者や地域の方々に見て、参加していただけるように、ポスター作成や公民館や市民館に放送を依頼し、生徒に呼びかさせる。 		
③ 保護者及び地域の方々と学校に対する率直な意見を交換し、課題改善に努める。（意見交換・情報収集）	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の変化を読み取り、素早い家庭訪問や学校評価アンケート等を通して、ご意見をいただき、課題改善に努めていく。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートだけでなく、学校だより、学級通信等の返信を呼びかける。 地域へ外向き、地域の方々からの情報収集や、家庭訪問を行い意見交換・情報収集していく。 		
学校関係者評価	講評	評価		学校関係者評価を踏まえての改善策		
	今年度は、新型コロナウイルスの影響で行事の縮小や制限があったなかであったが、総合発表会や小中合同体育の開催ができたことが良かった。今後は、学校、保護者と地域の三者がより連携していくためにより一層努力していく必要がある。	A	行事等への参加を増やしていくための情報発信として吉良川町内での放送を生徒が行うなど、積極的な情報発信に努める。また、総合学習などでは、地域と学校が繋がる機会と捉え、学習テーマなどで吉良川を題材にしていく。			